

はい、すぐ持ちました。毎年10名ぐらいのゼミ生を持ちました。30年以上ですから、教え子はざっと300余名というところですね。ただ、赴任当時は学園紛争の真っ最中でしたから、若手ということで矢面に立たされましたね。

面交とかバリケード封鎖ですね？

そうです。まあ、体力勝負で大変でした。当時と今の学生を比べていかがですか？

ここ10年ですかね、学生がずいぶん幼くなったなと感じています。自分が年を取ったせいだけではないようです。昔の学生はやはりしっかりしてました。「天下国家を論じる気概」と言うのか、大人と言うか、豪傑がいましたね。いまでも元気な学生はいますが、大人という点では、少し物足りませんね。

「幼い」といわれた学生としてはどうですか？

(学生インタビュー) はい、実際幼いです。

(学長) 言われればちゃんとするのに、指示待ち人間と言うか、自分で判断して行動する学生が減ってきてますね。それから、情報には詳しいのだけど、それを脈絡立ててきちんと説明するという能力が落ちてきているように思います。

でも、それは商大だけではありませんよね。

そうです。いまの学生は要領よく楽に卒業しようという態度が見えすぎますね。

ぼんこつアウディでヨーロッパ中を走りまわる

なるほど、なんとかする必要がありそうですね。学生交換協定締結校などからくる外国人留学生なども商大生は子供じみてるとか個性がないとよく言ってますからね。海外とい

えば学長はドイツに留学されましたね。

36歳のときでした。良い思い出です。ぼんこつアウディ100でヨーロッパ中走りまわりました。

どこの町でした？

シュパイヤーというハイデルベルク近くの小さな町です。行政大学院がそこにありましてね。ドイツは地方分権が進んでいますから、本当にいろんなところにこうした研究機関が置かれているんですよ。1年半研究してきました。

留学も「行政大学院」ということは、学長を務めることにならなければ「生涯行政法学者」ということでしたか。

そうですね、行政法一筋です。ただ行政法はいろいろな分野を抱えていまして、とくに興味があったのは救済、国家賠償といった分野です。

北海道地方労働委員会の公益委員も長年務められました。これも行政法ということですか？

はい、直接は労働法が関係しますが、労働委員会の発する命令とか、それに対する不服申立てや行政訴訟といった問題になると私の専門に関わってきます。私自身は100件以上の労使紛争を扱いましたが、いずれも貴重な人生経験になっています。16年半携わりました。

「先生ススキノに寮を建てて」

また、学生の話に戻りたいと思います。学内行政に長く携わられていますが、学生部長も務められましたね。

平成4年に学生部長に選出されましたが、それまでは学内行政にはあまり関心はありませんでした。2期4年務めました。その後も副学長など、山田前学長が学長になられてからはずっとなんらかの形で学内行政に関わってきました。

なるほど、そういったお立場から見て、商大生の65%が札通生(札幌から通う学生)という現状はいかがお考えですか？

そうですね、小樽という町と学生との関わりという点では残念ですが、札幌の方がバイトなどの面でも住みやすいですからね。このあいだなど、「先生、ススキノに寮を建ててください」という学生がいましたからね。この問題は昔のように寮を建てれば解決すると

いう問題ではありません。寮を建てても入る学生がいるかどうか、ライフスタイルが根本的に変わってしまいましたから。これからの地域と大学との関係はもっと違った形で考える必要があるでしょう。

道外から来る学生も少なくなりましたね。

はい、昔に比べれば相当減りました。地方大学に共通の悩みですね。これは個別大学の努力では限界のある問題です。

これが小樽商大だといえる強い個性を

最後に新学長としての抱負をお願いします。たとえば「法人化」など問題山積ですよね。

はい、2年後には国立大学は国の機関から離れて、独立した法人格を持つことになりそうです。つまり、国直属の機関でなくなるのですが、国の機関としての規制が少なくなりますから、かなり自由に運営できる、つまり個性を発揮できるようになる面はあるでしょう。でも移行に向けての準備は大変ですよ。予算がなくなるわけではありませんよね。

もちろんです。当初は実績に見合う予算が配分されますが、なにが違ってくるかということ、6年ごとに「評価」を受けなくてはならないんです。そして、それに基づいて予算配分が変わってくることになります。この「評価」が大変なんです。

東大や京大と競争して評価を受けろというわけですか？ 厳しいですよね。

そうです。評価のシステムをどう作るかも大問題です。

ちまたでは再編統合のうわさが……

はい、いろいろなことを考えなくてはなりません。ひとつ言えること、そしてわれわれが目指すべきことは、これが小樽商大だといえる強い個性を持つこと、単独でもやっていけるだけの力を持つことです。これからの時代、それがすべてだとも言えますね。どうもありがとうございました。(髭はいつからという学生の質問もありましたが、40代から手入れを怠らない髭と学長とは切っても切れない縁のようです)



あきやま よしあき 小樽商科大学長 秋山 義昭

略歴

昭和40年3月 北海道大学法学部法律学科卒業
昭和42年4月 北海道大学法学部助手
昭和44年4月 小樽商科大学短期大学部講師
昭和46年10月 同上 助教授

昭和57年4月 小樽商科大学商学部助教授
昭和58年10月 同上 教授
平成4年7月 小樽商科大学学生部長
平成13年4月 同上 副学長

学位 / 法学博士
専攻 / 行政法学